

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問1 シラバスに沿って授業を行えた。

①:15 (63%) ②:9 (37%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:18 (75%) ②:6 (25%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:17 (71%) ②:4 (17%) ③:3 (12%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:23 (96%) ②:1 (4%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:14 (59%) ②:8 (33%) ③:2 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:20 (83%) ②:3 (13%) ③:1 (4%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:20 (83%) ②:4 (17%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:13 (54%) ②:9 (38%) ③:2 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:13 (54%) ②:9 (38%) ③:2 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:12 (50%) ②:9 (38%) ③:3 (12%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

**B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。**

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 0 (0%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 13 (54%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 0 (0%)
- ④その他： 8 (33%)

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 12 (50%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 17 (71%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 5 (21%)
- ④その他： 8 (33%)

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：17 クラス（順不同）

[1] シラバスに書いてあるように授業をするのではなく、学生のその時々の理解度、興味、質問等を考慮して、シラバスを少しは変更して授業を行った。

[2] 簡潔な説明をした。

[3] グループ課題の質を改善するため昨年度よりもグループ毎の話し合いの時間を多くした。・・・4 クラス

[4] 重要ポイントの明記を行い、今、学習している内容がこれまで学習したものやこれから学習することとどのような関連があるのかを整理しながら授業を進められた。期末試験の結果を見る限り、一定の効果があつたと考えられる。また、T A 学生の協力のもと、発音や練習問題など、個別での指導を以前より徹底できたと思う。・・・2 クラス

[5] 言語の習得と同時に文化面での興味ももてるよう、工夫をした。映像を見せるなど。また、言語の習得という意味でも、単語力をつけるため毎回小テストを行うなど基礎力のアップを目指した。過度のプレッシャーを与えないように、注意を払いつつ本文の暗唱やペア練習を積極的に進めた。

[6] 昨年度に引き続き、学生が中国語への興味関心を持ったり、学習意欲を高めたりすることがいっそうできるよう、数字の発音を用いたゲームや中国語の音楽を取り入れたり、学生にとって身近な単語を紹介したりした。・・・2 クラス

[7] 昨年同様学生が言語だけでなく背景の文化にも興味を持つように心がけた。また、クラスサイズが適当なため、皆の前で発表をする機会が多かった。聞き取りの賞テストも数多く実施し、単語力もつけることができた。

[8] 昨年度は仏検対象の授業であったが、今年度はより実践的な日常会話の内容に変更した。

[9] グループ課題の質を改善するため昨年度よりもグループ毎の話し合いの時間を多くした。

[10] 検定試験を意識した授業をすることははっきり打ち出し、実行した。結果受験者は全員合格でき、成果が出たと思う。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 17 クラス（順不同）

[1] 進度が遅くなってしまい、シラバスに書いてあるページまで（最後の授業までに）行くことができなかった。

[2] 語学の授業において、異文化理解を促し、個別学習とグループ学習のバランスをはかり、学習者に充実感を与える内容を心がけている。・・・4クラス

[3] 教科書のみに従うのではなく、実際に学習者が韓国語を使う場面を想定し、もう少し使える韓国語を教えたかった。例えば、医学部の学生であれば、医学に関連のある単語や、患者さんを診察するときの用語など、学習者のニーズや特性に合わせて授業設計と実践を行うべきであった。

[4] スクリーンなどの扱いがうまくいかず、不具合が生じるたびに慌ててしまった。もう少し、文化や韓国語でのコミュニケーションなど、学習者のニーズに基づいた授業設計と実践を行うべきであったと考える。

[5] 学生のアンケートをみても、おおむね好評で継続した学習を希望する者があるようで、よい授業ができたのではないかと考える。特にプロジェクターを使って、視覚に訴えながら、体を使って覚える（発音する）という方法は、原始的ではあるが結局のところ学生の満足度も上げる効果があるのではなかろうか。

[6] 1. 学生には出席カード（出席チェックや小テストの点数を記入）を配布し、ポートフォリオとして活用した。・・・3クラス

2. 出席カードの裏面には、毎回、授業終了後にその日の感想や疑問点、また、自身の授業への取組や理解度などを書くように指導し、個別の状況も把握するように努めた。書かれた疑問点については、その個人に返信するだけでなく、必要な場合には、翌週以降、クラス全体に指導を広げた。・・・3クラス

3. ほぼ毎回小テストを実施し、学習したことを翌週までに復習して確認できるようにつとめた。学生の理解が不十分な箇所を把握するのも効果的であった。・・・3クラス

4. 休講で進度が少し遅れて、最後の方に急いで進んでしまったので、最終授業日以降の予備日に「自習室」（担当教員も待機）の時間を設定し、自由に勉強したり質問したりできるようにした。（補講に関してはスケジュールが合わずできなかった。）

5. 公開講座（日南）で実施している「観光のための中国語講座」を紹介し、受講希望者には送迎（留学生と同乗）のサポートも行った。

[7] 同じシラバスでも、先生が違うことによって授業のスタイルも異なる事を受講する学生に理解を得られました。にも拘らず学期末試験は全クラス統一試験問題を使いました。学生に迷惑を掛けたのではないか気になっています。

[8] 筆記試験の結果が例年に比べて悪かった。授業内の口頭試験や聞き取りテストに比べてあまりにもできが悪かったので、今後授業内でもっと実際の試験に近い形での練習を増やすなど学生の気質の変化に合わせた授業内容へと変化させたい。

[9] プロジェクターを多用し視覚に訴えながら、音声聞き、発音するという訓練をくりかえしたが、プロジェクターの性能の問題なのか、あまりきれいに映らないことがあり、歯がゆさを感じるが多かった。学生のアンケートをみるかぎり、満足に思う学生が多かったので、視覚と聴覚に訴え、体を使って中国語を発音するという方針は続けてよいのではないかと考えた。

[10] 語学の授業において、異文化理解を促し、個別学習とグループ学習のバランスをはかり、学習者に充実感を与える内容を心がけている。・・・2クラス

[11] アンケートにもあったが、もう少し学生一人一人に発言してもらえる機会を与えるべきだった。やらねばならないことが多く、なかなか学生が自分で作業する機会がなかった。留学生に参加してもらい、実際に中国語を使う機会も設けたが、今後の進め方を検討したい。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

**C (問 16～18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 24 (100%)      ②いいえ： 0 (0%)      未回答： 0 (0%)

問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 22 (92%)
- ②読んで理解する： 24 (100%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 1 (4%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 2 (8%)
- ⑤討論する： 0 (0%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 12 (50%)
- ⑦その他： 5 (21%)

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 17 クラス（順不同）

[1] この授業はドイツ語の授業である。言語はコミュニケーションの手段であるから、この授業ではコミュニケーション能力の（非常に多くの練習をすることによる）育成が重要であることは言うまでもない。

[2] ドイツ語会話を重点的に発展させた

[3] ペアおよびグループでの学習と発表。・・・ 6 クラス

[4] TA 学生も交え、正しい韓国語の発音指導を個別で行い、ペアでの発音発表も頻繁に行った。・・・ 2 クラス

[5] 学習したフレーズを使って学生同士が実際に挨拶をしたりインタビューをしたりする機会があった。また、毎回テキスト本文は、ペアで練習して、いくつかの課は暗唱することを課題とした。

[6] コミュニケーションの基本として、各自の名前の中国語音も含む、自己紹介フレーズを指導した。・・・ 3 クラス

[7] 覚えたフレーズを使用して互いに会話するなど実際に言語を運用する機会を作った。皆の前で会話を暗唱するなど、発表する機会も多かった。

[8] テキスト本文は毎回ペアで練習した。また、初対面の挨拶は、挨拶ゲームとして、学生たちが制限時間内で多くの人と挨拶する機会を設けた。会話のいくつかは暗唱をし、実際の会話のように話してみせることを課題とし、学生も意欲的に取り組んでいた。

[9] 韓国語ネイティブの学生を授業に雇用し、日本人学生との交流やコミュニケーションを促したところ、大変好評だった。

**D (問 19～22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

教員 FD 活動レポート（基礎教育）H29 前期 まとめ 初修外国語

①はい： 0 (0%)

②いいえ： 22 (92%)

未回答： 2 (8%)

問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

① 1～5 回：

② 6～10 回：

③ 11～15 回：

未回答：

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

① 歴史・文化：

② 政治・経済・産業：

③ 自然環境・フィールド体験： ④ その他：

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：